日本史学科専門科目（令和６年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	開放
基礎科目	30010		日本史概説１	②	30	1	前期	吉田　歓	○	［国］は専門単位 ［英・社］は教養単位	教養
	30020		日本史概説２	②	30	1	前期	山田彩起子	○		教養
	30030		日本史概説３	②	30	1	前期	小林　文雄	○		教養
	30040		日本史概説４	②	30	1	後期	布施　賢治	○		教養
	30051		日本文化史概説	2 ②	30	1	後期	原　淳一郎	○	［国］は専門単位 ［英・社］は教養単位	教養
	30061		人文地理学概説	2	30	1	後期	桑林　賢治	○	人文地理学	教養
	30070		外国史１	2 ②	30	1･2	後期	鈴木　博之	○	東洋史	教養
	30080		外国史２	2	30	1･2	前期	鍵和田　賢	○	西洋史［英］は専門単位 ［国･社］は教養単位	教養
	30090		古文書学１	②	30	1	前期	布施　賢治			
	30100	30101	古文書学２	②	30	1	後期	原　淳一郎		［国］「古文書学」で読替	
	30100	30102	〃					山田彩起子			
			古文書学３	2	30	2	前期	小林　文雄			
	30110		史学実習１	①	45	1	後期	日本史専任教員			
			史学実習２	①	45	2	前期	日本史専任教員			
基幹科目	30210		日本史講読１Ａ	2	30	1･2	前期	吉田　歓		古代史	
	30220		日本史講読２Ａ	2	30	1･2	前期	山田彩起子		中世史	
	30230		日本史講読３Ａ	2 ②	30	1･2	前期	小林　文雄		近世史　１年次にＡ	
	30240		日本史講読４Ａ	2	30	1･2	前期	布施　賢治		近現代史　から履修	
	30250		日本史講読５Ａ	2	30	1･2	前期	原　淳一郎		文化史	
	30270		地理学講読Ａ	2	30	1･2	前期	桑林　賢治		人文地理学	
	30310		日本史講読１Ｂ	2	30	1･2	後期	吉田　歓		古代史	
	30320		日本史講読２Ｂ	2	30	1･2	後期	山田彩起子		中世史	
	30330		日本史講読３Ｂ	2 ②	30	1･2	後期	小林　文雄		近世史　１年次にＢ	
	30340		日本史講読４Ｂ	2	30	1･2	後期	布施　賢治		近現代史　から履修	
	30350		日本史講読５Ｂ	2	30	1･2	後期	原　淳一郎		文化史	
	30370		地理学講読Ｂ	2	30	1･2	後期	桑林　賢治		人文地理学	
			日本史特殊研究１Ａ	2	30	2	前期	吉田　歓		古代史	
			日本史特殊研究２Ａ	2	30	2	前期	山田彩起子		中世史	
			日本史特殊研究３Ａ	2 ②	30	2	前期	小林　文雄		近世史	
			日本史特殊研究４Ａ	2	30	2	前期	布施　賢治		近現代史	
			日本史特殊研究５Ａ	2	30	2	前期	原　淳一郎		文化史	
			地理学特殊研究Ａ	2	30	2	前期	桑林　賢治		人文地理学	
			日本史特殊研究１Ｂ	2	30	2	後期	吉田　歓		古代史	
			日本史特殊研究２Ｂ	2	30	2	後期	山田彩起子		中世史	
			日本史特殊研究３Ｂ	2 ②	30	2	後期	小林　文雄		近世史　Ａと同一	
			日本史特殊研究４Ｂ	2	30	2	後期	布施　賢治		近現代史　番号を履修	
			日本史特殊研究５Ｂ	2	30	2	後期	原　淳一郎		文化史	
			地理学特殊研究Ｂ	2	30	2	後期	桑林　賢治		人文地理学	
			日本史演習１Ａ	2	30	2	前期	吉田　歓		古代史	
			日本史演習２Ａ	2	30	2	前期	山田彩起子		中世史	
			日本史演習３Ａ	2	30	2	前期	小林　文雄		近世史	
			日本史演習４Ａ	2	30	2	前期	布施　賢治		近現代史	
			日本史演習５Ａ	2	30	2	前期	原　淳一郎		文化史	
			地理学演習Ａ	2	30	2	前期	桑林　賢治		人文地理学	
			日本史演習１Ｂ	2	30	2	後期	吉田　歓		古代史	
			日本史演習２Ｂ	2	30	2	後期	山田彩起子		中世史	
			日本史演習３Ｂ	2	30	2	後期	小林　文雄		近世史　Ａと同一	
			日本史演習４Ｂ	2	30	2	後期	布施　賢治		近現代史　番号を履修	
			日本史演習５Ｂ	2	30	2	後期	原　淳一郎		文化史	
			地理学演習Ｂ	2	30	2	後期	桑林　賢治		人文地理学	
展開科目	30810		女性史１	2	30	1･2	後期	山田彩起子			
			女性史２	2	30	1･2	後期	山田彩起子		本年度開講せず	教養
	30830		考古学概説	2	30	1･2	前期	阿部　明彦			教養
	30840		民俗学概説	2	30	1･2	前期	阿部　宇洋		［国］と合同	教養
	30850		歴史考古学	2	30	1･2	前期	吉田　歓			教養
	30871		生活文化史	2	30	1･2	後期	小林　文雄			教養
	30880		国際交流史	2	30	1･2	後期	布施　賢治			教養
関連科目	30911		地理学特論	2	30	1･2	前期	桑林　賢治			教養
	30921		自然地理学	2	30	1･2	集中	佐野　嘉彦	○	前期開講（8～9月）	教養
	30930		地誌学	2	30	1･2	後期	桑林　賢治	○		教養
	30940		法律学	2	30	1･2	後期	髙木　紘一	②		教養
	30950		政治学	2	30	1･2	後期	亀ヶ谷雅彦		［社］「政治心理学」で読替	
	30960		社会学	2	30	1･2	前期	中川　恵	②	［社］と合同	
	30970		経済学	2	30	1･2	前期	山田　忍		［社］「経済学入門」で読替	
	30980		倫理学	2	30	1･2	後期	佐々木隼相	②		教養
	30990		哲学	2	30	1･2	前期	小熊　正久			教養
	31000		宗教学	2	30	1･2	前期	原　淳一郎			教養
	31010		思想史	2	30	1･2	前期	小野　卓也		［国］「東洋思想」で読替	
			卒業研究	④		2					

（注）・「○数字」は必修単位、「}○数字」は選択必修単位
・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から１つのみ選択できる
・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

日本史学科専門科目（令和５年度入学生用）

	科目コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	開放
基礎科目		日本史概説１	②	30	1	前期	吉田　歓	○	［国］は専門単位 ［英・社］は教養単位	教養
		日本史概説２	②	30	1	前期	薗部　寿樹	○		教養
		日本史概説３	②	30	1	前期	小林　文雄	○		教養
		日本史概説４	②	30	1	後期	布施　賢治	○		教養
		日本史概説５	②	30	1	後期	山田彩起子	○	「女性史1で読替」	
		日本史概説６	②	30	1	後期	原　淳一郎	○	［国］は専門単位 ［英・社］は教養単位 「日本文化史概説」で読替	教養
	30070	外国史１	2 ②	30	1･2	後期	鈴木　博之	○	東洋史	教養
	30080	外国史２	2	30	1･2	前期	鍵和田　賢	○	西洋史［英］は専門単位 ［国･社］は教養単位	教養
		古文書学１	②	30	1	前期	布施　賢治			
		古文書学２	②	30	1	後期	原　淳一郎		［国］「古文書学」で読替	
		〃					山田彩起子			
	30103	古文書学３	2	30	2	前期	小林　文雄			
		史学実習１	①	45	1	後期	日本史専任教員			
	30120	史学実習２	①	45	2	前期	日本史専任教員			
基幹科目	30210	日本史講読１Ａ	2 ②	30	1･2	前期	吉田　歓		古代史	
	30220	日本史講読２Ａ	2	30	1･2	前期	山田彩起子		中世史	
	30230	日本史講読３Ａ	2	30	1･2	前期	小林　文雄		近世史　１年次にＡ	
	30240	日本史講読４Ａ	2	30	1･2	前期	布施　賢治		近現代史　から履修	
	30250	日本史講読５Ａ	2	30	1･2	前期	原　淳一郎		文化史	
		日本史講読６Ａ	2	30	1･2	前期	山田彩起子		本年度開講せず	
	30310	日本史講読１Ｂ	2 ②	30	1･2	後期	吉田　歓		古代史	
	30320	日本史講読２Ｂ	2	30	1･2	後期	山田彩起子		中世史	
	30330	日本史講読３Ｂ	2	30	1･2	後期	小林　文雄		近世史　１年次にＢ	
	30340	日本史講読４Ｂ	2	30	1･2	後期	布施　賢治		近現代史　から履修	
	30350	日本史講読５Ｂ	2	30	1･2	後期	原　淳一郎		文化史	
		日本史講読６Ｂ	2	30	1･2	後期	山田彩起子		本年度開講せず	
	30410	日本史特殊研究１Ａ	2 ②	30	2	前期	吉田　歓		古代史	
	30420	日本史特殊研究２Ａ	2	30	2	前期	山田彩起子		中世史	
	30430	日本史特殊研究３Ａ	2	30	2	前期	小林　文雄		近世史	
	30440	日本史特殊研究４Ａ	2	30	2	前期	布施　賢治		近現代史	
	30450	日本史特殊研究５Ａ	2	30	2	前期	桑林　賢治		歴史地理学	
	30460	日本史特殊研究６Ａ	2	30	2	前期	原　淳一郎		文化史	
	30510	日本史特殊研究１Ｂ	2 ②	30	2	後期	吉田　歓		古代史	
	30520	日本史特殊研究２Ｂ	2	30	2	後期	山田彩起子		中世史	
	30530	日本史特殊研究３Ｂ	2	30	2	後期	小林　文雄		近世史　Ａと同一	
	30540	日本史特殊研究４Ｂ	2	30	2	後期	布施　賢治		近現代史　番号を履修	
	30550	日本史特殊研究５Ｂ	2	30	2	後期	桑林　賢治		歴史地理学	
	30560	日本史特殊研究６Ｂ	2	30	2	後期	原　淳一郎		文化史	
	30610	日本史演習１Ａ	2	30	2	前期	吉田　歓		古代史	
	30620	日本史演習２Ａ	2	30	2	前期	山田彩起子		中世史	
	30630	日本史演習３Ａ	2	30	2	前期	小林　文雄		近世史	
	30640	日本史演習４Ａ	2	30	2	前期	布施　賢治		近現代史	
	30650	日本史演習５Ａ	2	30	2	前期	桑林　賢治		歴史地理学	
	30660	日本史演習６Ａ	2	30	2	前期	原　淳一郎		文化史	
	30710	日本史演習１Ｂ	2	30	2	後期	吉田　歓		古代史	
	30720	日本史演習２Ｂ	2	30	2	後期	山田彩起子		中世史	
	30730	日本史演習３Ｂ	2	30	2	後期	小林　文雄		近世史　Ａと同一	
	30740	日本史演習４Ｂ	2	30	2	後期	布施　賢治		近現代史　番号を履修	
	30750	日本史演習５Ｂ	2	30	2	後期	桑林　賢治		歴史地理学	
	30760	日本史演習６Ｂ	2	30	2	後期	原　淳一郎		文化史	
展開科目		女性史１	2	30	1･2	後期	山田彩起子		本年度開講せず	
		女性史２	2	30	1･2	後期	山田彩起子		本年度開講せず	教養
	30830	考古学概説	2	30	1･2	前期	阿部　明彦			教養
	30840	民俗学概説	2	30	1･2	前期	阿部　宇洋		［国］と合同	教養
	30850	歴史考古学	2	30	1･2	前期	吉田　歓			教養
	30871	生活文化史	2	30	1･2	後期	小林　文雄			教養
	30880	国際交流史	2	30	1･2	後期	布施　賢治			教養
関連科目	30910	地理学１	2	30	1･2	前期	桑林　賢治	○	「人文地理学概説」で読替	教養
	30920	地理学２	2	30	1･2	集中	佐野　嘉彦	○	「自然地理学」で読替	教養
	30930	地誌学	2	30	1･2	後期	桑林　賢治	○		教養
	30940	法律学	2	30	1･2	後期	髙木　紘一	②		教養
	30950	政治学	2	30	1･2	後期	亀ヶ谷雅彦		［社］「政治心理学」で読替	
	30960	社会学	2	30	1･2	前期	中川　恵	②	［社］と合同	
	30970	経済学	2	30	1･2	前期	山田　忍		［社］「経済学入門」で読替	
	30980	倫理学	2	30	1･2	後期	佐々木隼相	②		教養
	30990	哲学	2	30	1･2	前期	小熊　正久			教養
	31000	宗教学	2	30	1･2	前期	原　淳一郎			教養
	31010	思想史	2	30	1･2	前期	小野　卓也		［国］「東洋思想」で読替	
	31110	卒業研究	④		2					

（注）・「○数字」は必修単位、「｝○数字」は選択必修単位
・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から１つのみ選択できる
・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：日本史概説1（30010）　　授業コード：30010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	1	2	必修・教職必修	
担当教員				
吉田　歓				
開放（教養）	聴講生開講科目※		※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。古代史について理解できる。歴史的な考察ができる。自分で調べたことをまとめることができる。
授業計画	第１回　イントロダクション～日本列島のすがた～ 第２回　倭人の登場 第３回　古代国家の形成 第４回　東アジアの中の日本 第５回　天皇号の成立 第６回　倭国から日本へ 第７回　律令国家支配の成立 第８回　飛鳥の様子 第９回　藤原京を探す 第１０回　藤原京の復元 第１１回　律令国家と地方 第１２回　律令国家と文化 第１３回　平安遷都 第１４回　古代の東北地方 第１５回　古代国家と中世社会
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説2（30020）　　授業コード：30020

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	1	2	必修・教職必修	
担当教員				
山田　彩起子				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本中世社会への理解を深める。
授業計画	第1回　中世という時代 第2回　院政の成立 第3回　武士の台頭 第4回　平家政権の興亡 第5回　鎌倉幕府の成立 第6回　鎌倉幕府支配体制の変遷 第7回　南北朝内乱と室町幕府の成立 第8回　足利義満 第9回　応仁・文明の乱 第10回　戦国時代の始まり 第11回　織田信長 第12回　中世の寺院勢力 第13回　中世の男色 第14回　中世の上杉家 第15回　上杉本洛中洛外図屏風
授業概要	中世すなわち平安時代後期～戦国時代について、まずは通史を説明し、その後で幾つかのテーマをとりあげます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義後、レジュメに提示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「中学や高校の授業で習った内容と違う」と思う場面が度々あると思います。近年の学説に触れられるのが大学の授業の醍醐味ですので、新しい知識・情報をどんどん吸収して下さい。
評価方法	期末レポート
参考文献	毎回、レジュメに参考文献を提示します。
備考	

講義科目名称：日本史概説3（30030）　　授業コード：30030

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	1	2	必修・教職必修	
担当教員				
小林　文雄				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ　日本近世社会（江戸時代）の歴史を、世界の諸地域との関わりのなかでとらえる。 到達目標　日本の近世社会の特質を、他の時代や諸地域と比較して理解し、説明することができる。
授業計画	第1回　ガイダンス　日本近世史とは何か 歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します。 第2回　世界のなかの近世日本（１）　東アジアのなかの日本 日本列島の歴史を、東アジアの広がりのなかで考えてみます。 第3回　世界のなかの近世日本（２）　北方の交易世界 蝦夷地を北東アジアや北太平洋地域のなかに位置づけ、日本列島の歴史を複線的にとらえ直します。 第4回　世界のなかの近世日本（３）　江戸時代の対外関係　国境はどのようにつくられるのか 江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。 第5回　近世の支配体制（１）　統治のしくみと社会制度 江戸時代の政治体制と、それを支えていた社会制度について説明します。 第6回　近世の支配体制（２）　領主支配の特質 中世の武家政権と近世の武家政権では、領主の支配のあり方にどのような違いがみられたのか、江戸時代の領主と百姓の関係はどのようなものだったのか、について説明します。 第7回　近世の支配体制（３）　統治の理念 なぜ、江戸幕府は約260年もの長い期間にわたって支配を続けることができたのか、検討します。 第8回　近世の文化と思想（１）　文字の普及と読み書き能力 江戸時代の社会の特質を、文字の普及や役割という観点からとらえ直します。 第9回　近世の文化と思想（２）　文字の習得と江戸時代の教育 江戸時代の庶民教育とその意義について考察します。 第10回　近世の文化と思想（３）　百姓一揆の思想 江戸時代の百姓たちの法意識、社会規範について検討します。 第11回　中間まとめ 第12回　近世の村と町（１）　江戸時代の村共同体 江戸時代の人びとは、自分たちの生活と生命をどのように守っていたのでしょうか。命を守る仕組みの発展という側面から、江戸時代の社会を見直します。 第13回　近世の村と町（２）　市場経済の発達 江戸時代の人びとは、どのような自然環境の中で生きていたのでしょうか。江戸時代の人びとの自然とのかかわり方、そのなかでの経済の発展について検討します。 第14回　近世の村と町（３）　国訴と郡中議定－近世後期の地域社会 江戸時代の村の自治が、近代に向けてどのように展開していったか、考察します。 第15回　近世の特質　まとめ
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点・論点やトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。資料はTeamsのファイルに入れます。あらかじめダウンロードしてください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、授業後にコメントシートを提出してもらいます。そのうち５回は、授業の理解度を確認するための問いに答えてもらう形式となります。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。 質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。
評価方法	期末レポート４０％、コメントシートの記述内容６０％（10%×５回の理解度確認シート＋その他のコメントシートの提出枚数） 期末レポートでは、日本の近世社会の特質を把握し、適切に説明できているかどうかを評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説4（30040）　　授業コード：30040

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	1	2	必修・教職必修	
担当教員				
布施　賢治				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自ら問題意識を持ち、日本近現代史の諸問題について考え、それを現代社会の諸問題と関連づけて検討できるようになること。
授業計画	第1回　明治維新の時代区分 ～明治維新はいつからいつまで？ 第2回　明治維新と国家形成 ～明治維新の結果どんな社会が形成されたのか？ 第3回　明治維新と主体勢力 ～明治維新は誰が達成したのか？ 第4回　米沢女子短期大学で学ぶ意味とは ～米短はどうして公立女子短期大学として戦後の米沢に誕生したのか？ 第5回　海防と武士・農民・国家 ～異国船に日本はどう対応したのか？ 第6回　明治維新と剣術 ～新撰組はなぜ活躍できたのか？維新後彼らはどうなったのか？ 第7回　武士から士族へ（廃藩置県） ～武士はどのようにリストラされたのか？ 第8回　大日本帝国憲法を読んでみる ～大日本帝国憲法の特徴と矛盾点について考える 第9回　地方改良運動とは ～現在の地域社会の原型はいつ頃形成されたのか？ 第10回　立身出世主義 ～近代を動かした心のエンジンとは何だろうか？ 第11回　大正デモクラシー ～日本人はいつからアメリカを意識しだすのか？ 第12回　現代化の契機とメディア ～いつから現代は始まるのか 第13回　総力戦と現代化―連続と断絶― ～戦後社会はすでに戦前社会に出来ていたのか？ 第14回　民衆と戦中・戦後 ～民衆は戦争・戦後とどのように向き合ったのか？ 第15回　戦前・戦後のニュース映画を見る ～映像史料から考える
授業概要	日本近現代史の諸問題について概説的に講述する。講義形式。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やほかの講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。
テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	期末レポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本文化史概説（30051）　　授業コード：30051

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
原　淳一郎			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」(「日本」とは限らない)がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。
授業計画	第1回　史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？ 第2回　歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観） 第3回　歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観） 第4回　稲作の起源と日本人起源論 第5回　柳田國男と日本民俗学（ビデオ） 第6回　いくつもの日本（東と西の日本文化） 第7回　いくつもの日本（北と南の日本文化） 第8回　日本国の成立と「日本人」 第9回　伊波普猷と沖縄学（ビデオ） 第10回　被差別と伝統文化 第11回　都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦） 第12回　国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異） 第13回　日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』･･･） 第14回　日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』･･･） 第15回　日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること
テキスト	すべてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。
評価方法	数回(6回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。 約6回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。

参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。
備考	

講義科目名称：人文地理学概説（30061）　　授業コード：30061

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	1	2	選択必修・教職必修	
担当教員				
桑林　賢治				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	人間をめぐる多様な地理的事象を、人文地理学の視点から理解し、説明する力を身に着けることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　人口 第3回　資源・エネルギー 第4回　農林水産業 第5回　工業 第6回　商業 第7回　観光 第8回　村落 第9回　都市 第10回　環境問題 第11回　エスニック・マイノリティ 第12回　国家と地域 第13回　地図 第14回　記憶・遺産 第15回　まとめ
授業概要	人間活動は様々な点において地理と密接かつ多様に関わりながら展開してきました。この授業では、人間をめぐる多様な地理的事象について、人文地理学の視点から理論的に考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理してください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	具体的な事例を基に、わかりやすい説明をこころがけます。また、毎回コメントシートを提出していただき、それに対するフィードバックを次回以降の授業で行うことで、理解の向上につなげたいと思います。
評価方法	コメントシート（30%）、レポート（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：外国史1（30070）　　授業コード：30070

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修・教職必修
担当教員			
鈴木　博之			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	古代から現代までテーマ別に中国の歴史を講義する。ただ、通史的な解説は行わないので、前もって概説書などで基本的な知識は準備しておいてもらいたい。中国史に止まらず、世界史的な視点から中国文明のあり方を理解したい。
授業計画	第1回　時代区分論 第2回　黄河文明の誕生 第3回　長江文明の発見 第4回　古代帝国の成立―秦漢帝国― 第5回　『史記』の世界―項羽と劉邦― 第6回　中世社会の成立 第7回　『三国志演義』の世界 第8回　隋唐世界帝国―遣唐使と日本― 第9回　近世社会の成立―都市革命― 第10回　モンゴル帝国―遊牧国家― 第11回　明清時代―紫禁城の黄昏― 第12回　銀の世紀―岩見銀山とポトシ銀山― 第13回　清の平和―長崎貿易― 第14回　中国の近代―上海― 第15回　革命の世紀―２０世紀―
授業概要	講義形式で解説する。映像資料も活用する予定である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	レポートを課すので、そのための下調べを行うことや興味のあった時代に関する本を読んでほしい。
テキスト	使用しない（適宜プリントを配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本とも関連の深い遣唐使なども取り扱う予定なので、日中の社会構造の違いにも留意したい。
評価方法	チェックテスト（適宜）、レポート数回、定期試験を総合的に判定する。
参考文献	寺田隆信『物語　中国の歴史』（中公新書１３５３　１９９７年）
備考	

講義科目名称：外国史2（30080）　　授業コード：30080

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修・教職必修
担当教員			
鍵和田　賢			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	１．ヨーロッパ近代の歴史を学ぶことを通して、「ナショナリズム」という概念がどのように生まれ、発展したのかを理解することができる。 ２．「ナショナリズム」という概念が、近代ヨーロッパ社会に与えた影響と、現代社会において持つ意味について、講義内容を踏まえた上で、自分自身の考えを表現することができる。
授業計画	第1回　ガイダンス―「想像の共同体」としての「国民」 第2回　はじめに―「ナショナリズム」とは何か？「国民」とは何か？ 第3回　自由主義的ナショナリズムの時代（１）―フランス革命と「国民」概念の誕生 第4回　自由主義的ナショナリズムの時代（２）―「血統主義的」ナショナリズム（ドイツの事例） 第5回　自由主義的ナショナリズムの時代（３）―「複合的」ナショナリズム（イギリスの事例） 第6回　自由主義的ナショナリズムの時代（４）―「1848年革命」と自由主義的ナショナリズムの挫折 第7回　変容するナショナリズム（１）―イタリア統一国家の形成 第8回　変容するナショナリズム（２）―ドイツ統一国家の形成 第9回　変容するナショナリズム（３）―「国民国家」と「国民」の創造 第10回　グローバル化とナショナリズム（１）―ラテンアメリカのナショナリズム 第11回　グローバル化とナショナリズム（２）―帝国主義とナショナリズム 第12回　大衆的ナショナリズムの時代（１）―第一次大戦とナショナリズム 第13回　大衆的ナショナリズムの時代（２）―ヴェルサイユ体制とナショナリズム 第14回　大衆的ナショナリズムの時代（３）―過熱するナショナリズムとファシズム 第15回　まとめ
授業概要	本講義では近現代のヨーロッパ（19-20世紀）の歴史を学ぶ。この時代のヨーロッパでは、私たちが自明ものとしている「〇〇人」（「〇〇国民」）という意識、すなわち「ナショナリズム」という独特の考え方が産み出された。 本講義は、「ナショナリズム」の歴史を学ぶことを通して、現代の私たちが「ナショナリズム」とどのように向き合うべきかを考えるきっかけとすることを目指す。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布された講義資料を読み返し復習するとともに、新聞やニュースをチェックして「ナショナリズム」に関連する話題に目を通すこと。
テキスト	講義中にプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義内容の理解を助け、自主学習にも利用できる参考資料を用意したい。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（50%）、期末の理解度確認調査（50%）

講義科目名称：古文書学1（30090）　　授業コード：30090

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史を学ぶさい、最も多く依拠されるのは古文書です。古文書には、その時代の政治体制によって、形式・紙質・用語・書体などにそれぞれの特殊性があります。それらの特殊性を理解しながら、できるだけ多くの古文書に接し、その読解力を深めるようにします。
授業計画	第1回　古文書学とは　1 ～古文書を歴史学から考える、様式論から考える～ 第2回　古文書学とは　2 ～古文書とは、古文書学の歴史～ 第3回　古文書学とは　3 ～古文書の作成順序と形態～ 第4回　公式様文書 ～詔書・勅旨・符・移・牒・解～ 第5回　公家様文書　1 ～官宣旨・宣旨～ 第6回　公家様文書　2 ～口宣案・下文～ 第7回　公家様文書　3 ～書札様文書・奉書・御教書・院宣・綸旨～ 第8回　鎌倉時代の武家文書 ～下文・下知状～ 第9回　南北朝・戦国期の武家文書　1 ～御判御教書・書下・判物～ 第10回　南北朝・戦国期の武家文書　2 ～御内書・印判状～ 第11回　上申文書　1 ～解文・訴陳状・紛失状・請文～ 第12回　上申文書　2 ～起請文・軍忠状～ 第13回　証文類 ～譲状・置文・売券・借用状・和与状～ 第14回　藩政・近代の文書 第15回　総復習
授業概要	講義形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。
テキスト	プリントを配布します。くずし字事典を購入することになりますのでご承知おき下さい（２２００円程度です）。購入についての案内は授業中に行います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	授業への参加度と期末試験
参考文献	
備考	

講義科目名称：古文書学2（30100）　　授業コード：30101　30102

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
原　淳一郎（01）　山田　彩起子（02）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	原組：前半はかな文字の基礎を固める。後半は、近世文書で使われる書体の解読力を身につける。 いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。近世から近代を専門とする（しようとする）人向け。 山田組：前半は同じテキスト（かな文字）を使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。 古代から中世を専門とする（しようとする）人向け。
授業計画	第1回　くずし字解読のためのガイダンス、クラス分け 第2回　江戸名所図会を読む－「かな」の練習（１） 第3回　女今川を読む－「かな」の練習（２） 第4回　ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（３） 第5回　江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（４） 第6回　手代の式目を読む－「かな」の練習（５） 第7回　小まとめ 第8回　宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（１） 第9回　交通・旅行に関する文書を読む（１）－「漢字」の練習（２） 第10回　交通・旅行に関する文書を読む（２）－「漢字」の練習（３） 第11回　交通・旅行に関する文書を読む（３）往来手形など－「漢字」の練習（４） 第12回　離縁状を読む 第13回　結婚・離婚に関する文書を読む 第14回　奉公人請状を読む 第15回　借用証文を読む
授業概要	原組（近世文書）、山田組（かな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。１回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちょっとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりやって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずです。
評価方法	期末試験。全体で３問。１問目は初見のかな文字。２問目はテキスト終了範囲から１問。３問目はテキスト未修範囲から１問。２問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは１問目、３問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：古文書学3（30103）　　授業コード：30103

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	１、江戸時代のくずし字を判読できるようになる（技能） ２、古文書を通して、江戸時代の庶民の生活や文化について理解し、説明できるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回　ガイダンス 授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。 第2回　江戸時代の版本を読む１ー往来物 実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、最初に、江戸時代の人たちが寺子屋で使っていた教材を読みます。 第3回　江戸時代の版本を読む２ー往来物 いろいろな種類の往来物に触れます。 第4回　江戸時代の版本を読む３－江戸の名所記と番付 第5回　江戸時代の版本を読む４－草双紙を眺めよう 第6回　庶民の一生（１）通過儀礼に関する記録を読む 婚礼の献立の記録や子どものお祝いの記録などを読みます 第7回　庶民の一生（２）　宗門人別帳を読む 第8回　庶民の一生（３）離縁状と人別送り状 第9回　庶民の一生（４）若者仲間の記録を読む 第10回　村の事件簿（１）村掟を読む 村で決めた定めごとを読み、江戸時代の村の様子を見てみます 第11回　村の事件簿（２）村の訴訟とさまざまな願書 村の公務にかかわって作成された帳簿から、人相書きや村で起きた事件をとりあげます 第12回　村のくらし（１）商いと金融 村びとの暮らし向きにかかわる文書、領収書や借金証文などを読みます 第13回　村のくらし（２）わざとまじない 第14回　村のくらし（３）楽しみの世界 第15回　まとめ
授業概要	毎回、江戸時代から明治時代初期にかけての、村方に残された古文書を取り上げて、判読していきます。さらに、これらの古文書読解を通して、江戸時代の庶民生活にせまりたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解読用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。くずし字辞典は貸し出しできます。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60%）と期末レポート（40%）で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：史学実習1（30110）　　授業コード：30110

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財保護の現状への理解を深める。
授業計画	1　ガイダンス 2　学内日本史専任教員による講義・実習　3回 古銭・銅鐸等の拓本をとる、など 3　学外講師による講義・実習　6回 4　学外研修　4回 県内の史跡見学、博物館・資料館見学、など 5　まとめ
授業概要	学外の研究者による講義ならびに学外研修 学外研修のうち1回は、1日日帰りでの実習を行う
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。 毎回、授業内容に関するコメントを出席カードに書いて提出してもらいます（コメントシートの提出）。
評価方法	コメントシートによる評価７０％、日帰り学外研修のレポート３０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：史学実習2（30120）　　授業コード：30120

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	１	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財の保護の現状への理解を深める。
授業計画	1　ガイダンス 2　学外講師による講義・実習　6回 3　学内日本史専任教員による講義・実習　3回 4　学外研修　5回 市内史跡・文化財見学、博物館・資料館見学、石碑の拓本をとる実習、など 5　夏季休暇中における研修旅行
授業概要	・学外の研究者による講義ならびに学外研修 ・夏季休暇中における研究室ごとの研修旅行
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。 毎回、授業内容に関するコメントを出席カードに書いて提出してもらいます（コメントシートの提出）。
評価方法	コメントシートによる評価７０％、研究室ごとの研修旅行のレポート３０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読1A（30210）　　授業コード：30210

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めることができる。文献史料を読む方法を身につけることができる。調べる方法を身につけることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 日本古代史史料総論 第2回　受講者による報告と解説(1) 第3回　受講者による報告と解説(2) 第4回　受講者による報告と解説(3) 第5回　受講者による報告と解説(4) 第6回　受講者による報告と解説(5) 第7回　受講者による報告と解説(6) 第8回　受講者による報告と解説(7) 第9回　受講者による報告と解説(8) 第10回　受講者による報告と解説(9) 第11回　受講者による報告と解説(10) 第12回　受講者による報告と解説(11) 第13回　受講者による報告と解説(12) 第14回　受講者による報告と解説(13) 第15回　受講者による報告と解説(14)
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくることが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈　続日本紀』（現代思潮社）
備考	

講義科目名称：日本史講読2A（30220）　　授業コード：30220

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は鎌倉時代の歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんであり、当時の貴族社会を研究する上で大変貴重な史料です。
授業計画	第1回　『明月記』およびその読解についてのガイダンス 第2回　教員による輪読報告及び受講者による第4回目以降の報告担当箇所の決定 第3回　教員による輪読報告 第4回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第5回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第6回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第7回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第8回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第9回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第10回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第11回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第12回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第13回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第14回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第15回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。 受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領(報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど)を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自分以外の受講者の輪読担当箇所にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻　明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』(八木書店、2006年) 稲村榮一『定家『明月記』の物語―書き留められた中世―』（ミネルヴァ書房、2019年） 村井康彦『藤原定家『明月記』の世界』(岩波書店、2020年)
備考	他の受講者の迷惑になりますので、輪読担当者は絶対に無断欠席はしないで下さい。

講義科目名称：日本史講読3A（30230）　　授業コード：30230

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	１．近世史料（江戸時代の文章・文体）を読んで理解することができる。（技能、知識・理解） ２．辞典類を適切に使って調べることができる。（技能）
授業計画	第1回　近世史料の特徴の解説とテキストの説明 第2回　近世後期の政治・社会状況の解説 第3回　人物と地名の調べ方 第4回　近世史料の読み方（１）　国語辞典・漢和辞典に慣れる 第5回　近世史料の読み方（２）　基本ツールの紹介 第6回　近世の紀行文を読む（１） 第7回　近世の紀行文を読む（２） 第8回　近世の紀行文を読む（３） 第9回　近世の紀行文を読む（４） 第10回　近世の紀行文を読む（５） 第11回　近世の紀行文を読む（６） 第12回　近世の紀行文を読む（７） 第13回　近世の紀行文を読む（８） 第14回　近世の紀行文を読む（９） 第15回　まとめ
授業概要	近世（江戸時代）の奥羽地方を旅した人びとの紀行文や日記を取り上げて読みます。受講者による輪読の形で進めます。受講者が担当した個所を読み、現代語訳します。そこから、江戸時代の社会や文化について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。授業前にTeamsの質問用フォームに質問や疑問点を記入して提出してもらいます。
テキスト	『日本庶民生活史料集成』（三一書房）から抜粋してコピーしたものを配布します。古川古松軒『東遊雑記』など、よく知られた史料を選んで読んでいく予定です。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	たくさん質問してください。
評価方法	授業での報告４０％、期末レポート３０％、Web上の質問用フォームの提出状況３０％ 授業での報告、期末レポートでは、辞典類を適切に使って調べることができているか、史料をきちんと読んで訳しているか、を評価します。
参考文献	授業内で紹介します。
備考	

講義科目名称：日本史講読4A（30240）　　授業コード：30240

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。
授業計画	第1回　講読4Aの授業の進め方の解説 第2回　講読4Aで読む史料の解説（幕末維新期・明治期の史料を読みます） 第3回　受講生による報告と質疑応答 第4回　受講生による報告と質疑応答 第5回　受講生による報告と質疑応答 第6回　受講生による報告と質疑応答 第7回　受講生による報告と質疑応答 第8回　受講生による報告と質疑応答 第9回　受講生による報告と質疑応答 第10回　受講生による報告と質疑応答 第11回　受講生による報告と質疑応答 第12回　受講生による報告と質疑応答 第13回　受講生による報告と質疑応答 第14回　受講生による報告と質疑応答 第15回　まとめ
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	該当史料のプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読5A（30250）　　授業コード：30250

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を音読し慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。
授業計画	第1回　魂の行方 第2回　郷土研究の方法 第3回　酒の飲み用の変遷 第4回　木綿以前のこと 第5回　木綿以前のこと 第6回　雪国の春 第7回　雪国の春 第8回　海上の道 第9回　海上の道 第10回　海上の道 第11回　海上の道 第12回　海上の道 第13回　ビデオ（南方熊楠と神社合祀令反対運動） 第14回　妖怪談義 第15回　蝸牛考
授業概要	柳田国男の著書・論考・手紙の輪読および簡単な討論を通して、日本文化を理解する手がかりとしたいと考えています。また南方熊楠との「山人論争」および近代天皇制国家による神社合祀政策への共闘、あるいは柳田の植民地主義・国家主義的な側面、エロティシズムの排除、実証的な研究方法などを紹介するなどして、柳田という人物への思想史的理解、ならびに民俗学の研究手法および先行研究批判の過程をともに学んでいきたいと考えています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習はもちろん、各自の担当箇所はしっかりと調べてきてください。
テキスト	授業のなかで配布します。ただし人数が少なければ、各自全集などから興味のあるものを選んでもらい皆で読んでいくことも考えています。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	しっかりと予習をしてきてください。
評価方法	輪読の様子、課題報告の２点で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：地理学講読A（30270）　　授業コード：30270

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択必修
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	人文地理学、とりわけ歴史地理学の重要な研究視角である「景観史」の概要、および具体的な研究内容について、文献の購読を通じて理解し、説明できるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　人文地理学における景観史 第3回　受講生による報告と討論 第4回　受講生による報告と討論 第5回　受講生による報告と討論 第6回　受講生による報告と討論 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による報告と討論 第14回　受講生による報告と討論 第15回　まとめ
授業概要	「景観史」に関する人文地理学の文献を取り上げ、要約や所感を担当者が報告し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	受講生は全員、取り上げる文献を事前に読み込んでください。また、担当者は報告資料を作成してください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	取り上げる文献では、「景観史」を切り口として、多様な地域・時代・トピックが検討されています。積極的に授業に参加することで、人文地理学研究の幅の広さを学ぶとともに、興味あるテーマを見つけてください。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	金田章裕 2020.『景観からよむ日本の歴史』岩波書店. 金田章裕編 2018.『景観史と歴史地理学』吉川弘文館.
備考	

講義科目名称：日本史講読1B（30310）　　授業コード：30310

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めることができる。文献史料を読む方法を身につけることができる。調べる方法を身につけることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 文献史料と出土文字資料の解説 第2回　受講者による報告と解説(1) 第3回　受講者による報告と解説(2) 第4回　受講者による報告と解説(3) 第5回　受講者による報告と解説(4) 第6回　受講者による報告と解説(5) 第7回　受講者による報告と解説(6) 第8回　受講者による報告と解説(7) 第9回　受講者による報告と解説(8) 第10回　受講者による報告と解説(9) 第11回　受講者による報告と解説(10) 第12回　受講者による報告と解説(11) 第13回　受講者による報告と解説(12) 第14回　受講者による報告と解説(13) 第15回　受講者による報告と解説(14)
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくることが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈　続日本紀』（現代思潮社）
備考	

講義科目名称：日本史講読2B（30320）　　授業コード：30320

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は鎌倉時代の歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんであり、当時の貴族社会について研究する上でも大変貴重な史料です。
授業計画	第1回　『明月記』およびその読解についてのガイダンス 第2回　教員による輪読報告及び受講者による報告担当箇所の決定 第3回　教員による輪読報告 第4回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第5回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第6回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第7回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第8回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第9回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第10回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第11回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第12回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第13回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第14回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第15回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領(報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど)を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自分以外の受講者の輪読担当箇所にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻　明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』(八木書店、2006年) 稲村榮一『定家『明月記』の物語―書き留められた中世―』（ミネルヴァ書房、2019年） 村井康彦『藤原定家『明月記』の世界』(岩波書店、2020年)
備考	他の受講者の迷惑になりますので、輪読担当者は絶対に無断欠席はしないで下さい。

講義科目名称：日本史講読3B（30330）　　授業コード：30330

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	１．近世史料を正確に読み、史料の背景を説明できるようになる。（知識・理解） ２．近世史の基本ツールの活用ができるようになる。（技能） ３．近世史の研究方法を身につけ、歴史学の調査方法と手順を習得できるようになる。（技能）
授業計画	第1回　ガイダンス 授業の概要と目標 第2回　近世史料の特徴 第3回　近世史料を読んでみよう 漢文の訓読法　候文の読み方 第4回　史料の背景を調べてみよう 史料読解の際の留意点、人物や地名などの調べ方の解説 第5回　江戸時代後期の社会状況と諸制度 第6回　江戸随筆を読む（1） 第7回　江戸随筆を読む（2） 第8回　江戸随筆を読む（3） 第9回　江戸随筆集を読む（4） 第10回　江戸随筆を読む（5） 第11回　江戸時代の御触れを読む（1） 第12回　江戸時代の御触れを読む（2） 第13回　江戸時代の日記を読む（1） 第14回　江戸時代の日記を読む（2） 第15回　まとめ
授業概要	近世の史料を選び、輪読します。主に、江戸の随筆集、日記、法令集などを使う予定です。。 最初の５回は、ガイダンス用資料、テキスト、テキストの読みくだし文などを用意します。近世の文体つい必や読み方に慣れるために、練習問題も用意します。 ６回目からは、受講生の報告となります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。 毎回、授業時間前に、テキストに関する疑問点やコメントを提出してもらいます。よく読み込んだうえで授業に臨んでください。
テキスト	根岸鎮衛『耳袋（耳嚢）』、松浦静山『甲子夜話』からの抜粋をテキストとする予定です。（『耳袋（耳嚢）』は、さまざまな雑話・綺談・市井の噂話を集めた随筆集で、江戸時代の人びとの生活感情に触れることができる格好の史料です。）その他、参考資料としてその他の法令集や日記も適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業では、質問や疑問点を出すなど、積極的に授業に参加して、史料のなかから面白いテーマを見つけてください。
評価方法	授業での報告６０％（辞書・事典類を使いこなしているか、調べ方を習得しているか、史料の内容を理解しているかを評価します） 毎回提出してもらうコメントシート４０％（授業の理解度確認）
参考文献	

講義科目名称：日本史講読4B（30340）　　授業コード：30340

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。
授業計画	第1回　講読4Bの授業の進め方の解説 第2回　講読4Bで読む史料の解説（大正期・昭和期の史料を読みます） 第3回　受講生による報告と質疑応答 第4回　受講生による報告と質疑応答 第5回　受講生による報告と質疑応答 第6回　受講生による報告と質疑応答 第7回　受講生による報告と質疑応答 第8回　受講生による報告と質疑応答 第9回　受講生による報告と質疑応答 第10回　受講生による報告と質疑応答 第11回　受講生による報告と質疑応答 第12回　受講生による報告と質疑応答 第13回　受講生による報告と質疑応答 第14回　受講生による報告と質疑応答 第15回　まとめ
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	該当史料のプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読5B（30350）　　授業コード：30350

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を解読し、音読し、史料に慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。
授業計画	第1回　授業内容のガイダンス 第2回　「旅行用心集」の原文による輪読 第3回　「旅行用心集」の原文による輪読 第4回　「旅行用心集」の原文による輪読 第5回　「旅行用心集」の原文による輪読 第6回　「旅行用心集」の原文による輪読 第7回　「旅行用心集」の原文による輪読 第8回　「旅行用心集」の原文による輪読 第9回　「成田道中膝栗毛」の輪読 第10回　「成田道中膝栗毛」の輪読 第11回　「伊勢物語」の輪読 第12回　「伊勢物語」の輪読 第13回　近世の農民による「伊勢道中日記」の輪読 第14回　近世の農民が書いた「伊勢道中日記」の輪読 第15回　「東海道名所記」の輪読
授業概要	『旅行用心集』のほか旅行史に関連する史料をもとに、毎回受講生による輪読および関連する課題報告（要レジュメ作成）をもとに授業を進めます。現在の予定では、『旅行用心集』のほか『成田道中膝栗毛』『伊勢物語（東下りの段）』、往来手形、関所手形、実際に旅行した人が書いた道中日記などを扱う予定です。この講義では、大半のテキストは翻刻されていない史料ですので、古文書の読解力を高めることも目的としています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習・復習をしてきてください。
テキスト	授業のなかで随時配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	大半はくずし字のテキストを使用しますので、しっかりと予習をしてきてください。
評価方法	輪読（読んでもらえば、予習の有無は大体分かります）、課題報告の2点で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：地理学講読B（30370）　　授業コード：30370

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択必修
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	人文地理学における記憶研究の手法と視角について、文献の購読を通じて理解し、説明できるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　人文地理学における記憶の研究 第3回　受講生による報告と討論 第4回　受講生による報告と討論 第5回　受講生による報告と討論 第6回　受講生による報告と討論 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による報告と討論 第14回　受講生による報告と討論 第15回　まとめ
授業概要	記憶に関する人文地理学の文献を取り上げ、要約や所感を担当者が報告し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	受講生は全員、取り上げる文献を事前に読み込んでください。また、担当者は報告資料を作成してください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、景観に記憶を刻み込む人々の営為のうち、主に日本国外（アメリカ合衆国）の事例について考えていきます。これらは皆さんの多くにとっては馴染みの薄い事例であるかもしれませんが、その背景にある理論は、皆さんの身近な地域での事例にも通ずるものがあるでしょう。想像力を豊かにして授業に望んでいただければと思います。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	ケネス・E・フット 2002.『記念碑の語るアメリカ――暴力と追悼の風景』名古屋大学出版会.
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究1A（30410）　　授業コード：30410

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会の仕組みを理解できる。古代の地域・文化について理解できる。古代史料の調査方法を身につけることができる。
授業計画	第1回　律令の編纂について解説 第2回　受講者による報告１ 第3回　受講者による報告２ 第4回　受講者による報告３ 第5回　受講者による報告４ 第6回　受講者による報告５ 第7回　受講者による報告６ 第8回　受講者による報告７ 第9回　受講者による報告８ 第10回　受講者による報告９ 第11回　受講者による報告１０ 第12回　受講者による報告１１ 第13回　受講者による報告１２ 第14回　受講者による報告１３ 第15回　受講者による報告１４
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究１Ｂ」「日本史演習１Ａ・Ｂ」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2A（30420）　　授業コード：30420

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	平安時代末期～鎌倉時代初期の貴族藤原(九条)兼実の日記『玉葉』を読み、当時の社会について理解することを目指します。『玉葉』は、院政･平家の盛衰･治承寿永内乱･鎌倉幕府の成立など、激動の時代の重要な事柄を研究するのに必要不可欠な史料です。
授業計画	第1回　教員によるガイダンス 第2回　教員による報告 第3回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第4回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第5回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第6回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第7回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第8回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第9回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第10回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第11回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第12回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第13回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第14回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第15回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説
授業概要	『玉葉』を輪読します。受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領(報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど)を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自分以外の受講者の輪読担当箇所にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『図書寮叢刊　九条家本　玉葉』をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究２Ｂ、日本史演習２Ａ・２Ｂと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告レジュメの内容60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	他の受講者の迷惑になりますので、自分の報告担当日には絶対に無断欠席をしないで下さい。

講義科目名称：日本史特殊研究3A（30430）　　授業コード：30430

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世史料にたいして、史料批判を行い、史料から史実を確定することができる。
授業計画	第1回　近世史料についての解説 第2回　近世史の基本的な調査方法についての解説 第3回　受講者各自の報告と質疑応答 第4回　受講者各自の報告と質疑応答 第5回　受講者各自の報告と質疑応答 第6回　受講者各自の報告と質疑応答 第7回　受講者各自の報告と質疑応答 第8回　受講者各自の報告と質疑応答 第9回　受講者各自の報告と質疑応答 第10回　受講者各自の報告と質疑応答 第11回　受講者各自の報告と質疑応答 第12回　史跡見学・調査 第13回　史跡見学・調査 第14回　史跡見学・調査 第15回　まとめ
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本史特殊研究３Ｂ」、「日本史演習３Ａ」、「日本史演習３Ｂ」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告６０％、討論への参加度４０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4A（30440）　　授業コード：30440

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。
授業計画	第1回　テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説 第2回　幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説 第3回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第4回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第5回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第6回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第7回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第8回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第9回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第10回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第11回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第12回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第13回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第14回　受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで） 第15回　まとめ
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究４Ｂ、日本史演習４Ａ・４Ｂと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究5A（30450）　　授業コード：30450

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択必修
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史地理学研究の遂行に必要となる技法を習得すること、および歴史地理学的視点から批判的な討論を行えるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　Excelによる統計処理（基礎） 第3回　Excelによる統計処理（発展） 第4回　GISを用いた地図作成（基礎） 第5回　GISを用いた地図作成（発展） 第6回　フィールドワークの方法 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による報告と討論 第14回　受講生による報告と討論 第15回　受講生による報告と討論（夏季休暇中の研究計画）
授業概要	卒業研究の遂行に向けて、文献の検索と整理、Excelによる統計処理、GISを用いた地図作成、フィールドワークの方法などを学びます。また、担当者が卒業研究の構想や関連する先行研究などを紹介し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当者は報告資料を作成してください。また、授業で学んだ各種の技法を実際に駆使して卒業研究を着々と進めてください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	討論では質問や指摘、感想などを積極的に提示してください。なお、「日本史演習５Ａ」、「日本史特殊研究５Ｂ」、「日本史演習５Ｂ」と連動させた授業を行うため、あわせて受講してください。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究6A（30460）　　授業コード：30460

英文科目名称：Special Studies in Japanese History 6A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	置賜地方を事例として地域史の手法を学び、将来的に学生一人一人がそれぞれ生活する地域で地域史の担い手となるようにしていきたいと考えています。また１年生で受講して形成した基礎的な古文書解読能力をさらに高めることも考えています。
授業計画	第1回　古文書史料の整理方法と翻刻作業の説明 第2回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 毎年受講者の解読力、解読する古文書の難易度、厚さによって進度は変わります。ただしできるだけ作業は進めていきたいと考えています。 第3回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第4回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第5回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第6回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第7回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第8回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第9回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第10回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第11回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第12回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第13回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第14回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業 第15回　置賜に関する古文書整理と翻刻作業
授業概要	置賜地方に関する古文書の翻刻、もしくは古文書の目録化作業を通じて、地域史研究の意義や方法を学ぶ。 積極的に米沢市や山形県・会津地方の民俗行事や伝統工芸・特産物の見学・調査、地域住民との交流に出かけたいと考えています。もし可能であれば、民俗調査にも行ければと考えています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	しっかり予習してきてください。
テキスト	置賜地方を中心とする地域に残る近世・近代文書
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎年受講者の解読力によって進度は変わります。短期的には、日本史・歴史学の学科へ編入する場合は、近世文書を読めることは必須条件ですし、博物館・史料館への勤務も同様です。長期的には、職に関係なく、古文書を読める人が１人でも地域にいることはその地域の文化力を高めることだと信じています。是非解読力を高めましょう。
評価方法	ゼミでの主体的な取り組みと、共同作業における担当部分の提出の有無、内容で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究1B（30510）　　授業コード：30510

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会の仕組みを理解できる。古代の地域・文化について理解できる。古代史料の調査方法を身につけることができる。
授業計画	第1回　古代史史料と律令についての解説 第2回　受講者による報告１ 第3回　受講者による報告２ 第4回　受講者による報告３ 第5回　受講者による報告４ 第6回　受講者による報告５ 第7回　受講者による報告６ 第8回　受講者による報告７ 第9回　受講者による報告８ 第10回　受講者による報告９ 第11回　受講者による報告１０ 第12回　受講者による報告１１ 第13回　受講者による報告１２ 第14回　受講者による報告１３ 第15回　受講者による報告１４
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究１Ａ」「日本史演習１Ａ・Ｂ」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2B（30520）　　授業コード：30520

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	平安時代末期～鎌倉時代初期の貴族藤原(九条)兼実の日記『玉葉』を読み、当時の社会について理解することを目指します。『玉葉』は、院政･平家の盛衰･治承寿永内乱･鎌倉幕府の成立など、激動の時代の重要な事柄を研究するのに必要不可欠な史料です。
授業計画	第1回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第2回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第3回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第4回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第5回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第6回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第7回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第8回　受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説 第9回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第10回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第11回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第12回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第13回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第14回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説 第15回　受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説
授業概要	『玉葉』を輪読します。受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領(報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど)を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自分以外の受講者の輪読担当箇所にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『図書寮叢刊　九条家本　玉葉』をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究２Ａ、日本史演習２Ａ・２Ｂと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告レジュメの内容60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	他の受講者の迷惑になりますので、自分の報告担当日には絶対に無断欠席をしないで下さい。

講義科目名称：日本史特殊研究3B（30530）　　授業コード：30530

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	１．近世史料にたいして史料批判を行い、史実を確定し、史料を解釈することができる。 ２．史料の整理・保存に関する技能を身につけることができる。
授業計画	第1回　近世史料についての解説 第2回　受講者各自の報告と質疑応答 第3回　受講者各自の報告と質疑応答 第4回　受講者各自の報告と質疑応答 第5回　受講者各自の報告と質疑応答 第6回　受講者各自の報告と質疑応答 第7回　受講者各自の報告と質疑応答 第8回　受講者各自の報告と質疑応答 第9回　受講者各自の報告と質疑応答 第10回　受講者各自の報告と質疑応答 第11回　受講者各自の報告と質疑応答 第12回　史料整理、撮影方法の解説 第13回　史料整理、撮影方法の解説 第14回　史料整理、撮影方法の解説 第15回　まとめ
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告します。１～２回程度、史料調査の方法について講義し、史料整理、撮影などを体験します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教室での授業が中心となります。希望ですが、実際の史料調査にも出かけることができれば、と考えています。なお、「日本史特殊研究３Ａ」、「日本史演習３Ａ」、「日本史演習３Ｂ」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告６０％、討論への参加度４０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4B（30540）　　授業コード：30540

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。
授業計画	第1回　テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説 第2回　幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説 第3回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第4回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第5回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第6回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第7回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第8回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第9回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第10回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第11回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第12回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第13回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第14回　受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで） 第15回　まとめ
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究４Ａ、日本史演習４Ａ・４Ｂと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究5B（30550）　　授業コード：30550

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択必修
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史地理学研究を遂行できるようになること、および歴史地理学的視点から批判的な討論を行えるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　夏季休暇中の研究状況の確認 第2回　受講生による報告と討論 第3回　受講生による報告と討論 第4回　受講生による報告と討論 第5回　受講生による報告と討論 第6回　受講生による報告と討論 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による最終報告と討論 第14回　受講生による最終報告と討論 第15回　受講生による最終報告と討論
授業概要	卒業研究の遂行に向けて、論文の執筆方法を学びます。また、担当者が卒業研究の進捗状況を報告し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当者は報告資料を作成してください。また、着々と卒業研究を進めてください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	討論では質問や指摘、感想などを積極的に提示してください。なお、「日本史特殊研究５Ａ」、「日本史演習５Ａ」、「日本史演習５Ｂ」と連動させた授業を行うため、あわせて受講してください。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究6B（30560）　　授業コード：30560

英文科目名称：Special Studies in Japanese History 6B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	置賜地方を事例として地域史の手法を学び、将来的に学生一人一人がそれぞれ生活する地域で地域史の担い手となるようにしていきたいと考えています。また１年生で受講して形成した基礎的な古文書解読能力をさらに高めることも考えています。
授業計画	第1回　古文書史料の整理方法と翻刻作業の説明 第2回　古文書整理と翻刻作業 毎年受講者の解読力、解読する古文書の難易度、厚さによって進度は変わります。ただしできるだけ作業は進めていきたいと考えています。 第3回　古文書整理と翻刻作業 第4回　古文書整理と翻刻作業 第5回　古文書整理と翻刻作業 第6回　古文書整理と翻刻作業 第7回　古文書整理と翻刻作業 第8回　古文書整理と翻刻作業 第9回　古文書整理と翻刻作業 第10回　古文書整理と翻刻作業 第11回　古文書整理と翻刻作業 第12回　古文書整理と翻刻作業 第13回　古文書整理と翻刻作業 第14回　古文書整理と翻刻作業 第15回　古文書整理と翻刻作業
授業概要	置賜地方に関する古文書の翻刻、もしくは古文書の目録化作業を通じて、地域史研究の意義や方法を学ぶ。 積極的に米沢市や山形県・会津地方の民俗行事や伝統工芸・特産物の見学・調査、地域住民との交流に出かけたいと考えています。もし可能であれば、民俗調査にも行ければと考えています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	しっかり予習してきてください。
テキスト	置賜地方を中心とする地域に残る近世・近代文書
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎年受講者の解読力によって進度は変わります。短期的には、日本史・歴史学の学科へ編入する場合は、近世文書を読めることは必須条件ですし、博物館・史料館への勤務も同様です。長期的には、職に関係なく、古文書を読める人が１人でも地域にいることはその地域の文化力を高めることだと信じています。是非解読力を高めましょう。
評価方法	ゼミでの主体的な取り組みと、共同作業における担当部分の提出の有無、内容で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習1A（30610）　　授業コード：30610

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究論文などの講読を行う。史料を調査することができる。考えをまとめることができる。発表することができる。
授業計画	第1回　古代史の研究論文の読み方と整理の仕方について解説 第2回　論文報告１ 第3回　論文報告２ 第4回　論文報告３ 第5回　論文報告４ 第6回　論文報告５ 第7回　論文報告６ 第8回　論文報告７ 第9回　論文報告８ 第10回　論文報告９ 第11回　論文報告１０ 第12回　論文報告１１ 第13回　論文報告１２ 第14回　論文報告１3 第15回　論文報告１4
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。 　なお、「日本史演習１Ｂ」「日本史特殊研究１Ａ・Ｂ」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習2A（30620）　　授業コード：30620

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世(女性史に関しては古代も含む)をテーマに卒業研究作成を目指す受講者に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、卒業研究を作成しましょう。
授業計画	第1回　研究報告レジュメ作成方法についての指導・受講者による報告順番の決定 第2回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第3回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第4回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第5回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第6回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第7回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第8回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第9回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第10回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第11回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第12回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第13回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第14回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第15回　受講者各自の研究報告及び討論・指導
授業概要	受講者各自の卒業研究準備報告とその討論・指導。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。
テキスト	受講者各自の報告レジュメ
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。 なお、日本史演習2B、日本史特殊研究2A･2Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告70％、討論への参加度30％
参考文献	
備考	他の受講者の迷惑になりますので、自分の報告担当日には絶対に無断欠席をしないで下さい。

講義科目名称：日本史演習3A（30630）　　授業コード：30630

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テーマ １．近世史の研究文献を輪読する ２．卒業研究の執筆に必要な能力（資料調査探求能力、文章表現能力）を身につける １．近世史の研究文献を読み解くことができる（知識・理解） ２．自分の考えを論理だてて説明し、伝えることができる（技能） ３．他者の意見を聞き、討議することができる（技能、態度）
授業計画	第1回　ガイダンス 授業計画のガイダンス。受講者の関心に合わせて、第1回目の授業で、使用するテキストを相談する。 第2回　文献の探し方についての解説 第3回　文献の読み方、研究の背景についての解説 第4回　卒業研究の進め方についてのガイダンス 第5回　研究文献の輪読１　受講者による報告と討論 第6回　研究文献の輪読２　受講者各自の報告と討論 第7回　研究文献の輪読４　受講者各自の報告と討論 第8回　先行研究の整理の仕方についての解説 第9回　卒業研究の構想発表１ 第10回　卒業研究の構想発表２ 第11回　研究文献の輪読５　受講者各自の報告と討論 第12回　研究文献の輪読６　受講者各自の報告と討論 第13回　研究文献の輪読７　受講者各自の報告と討論 第14回　研究文献の輪読８　受講者各自の報告と討論 第15回　まとめ
授業概要	学生の報告・討論を中心に授業をすすめます。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらい、その後、受講生全員による質疑応答、討論を行います。 また、この演習では、各自の卒業研究計画に合わせた準備報告も行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に応じて選定します。卒業研究と関連するような文献を用意する予定です。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生が積極的に質問や発言できるよう心掛けたいと思います。なお、「日本史演習３Ｂ」、「日本史特殊研究３Ａ」、「日本史特殊研究３Ｂ」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告６０％、討論への参加度４０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4A（30640）　　授業コード：30640

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	第1回　高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説 第2回　卒業研究を作成する上での留意点などの解説 第3回　受講生による報告と質疑応答 第4回　受講生による報告と質疑応答 第5回　受講生による報告と質疑応答 第6回　受講生による報告と質疑応答 第7回　受講生による報告と質疑応答 第8回　受講生による報告と質疑応答 第9回　受講生による報告と質疑応答 第10回　受講生による報告と質疑応答 第11回　受講生による報告と質疑応答 第12回　受講生による報告と質疑応答 第13回　受講生による報告と質疑応答 第14回　受講生による報告と質疑応答 第15回　まとめ
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習４Ｂ、日本史特殊研究４Ａ・４Ｂと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5A（30650）　　授業コード：30650

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２	２	選択
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史地理学研究の遂行に必要となる技法を習得すること、および歴史地理学的視点から批判的な討論を行えるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　歴史地理学研究の進め方 第2回　Excelによる統計処理（基礎） 第3回　Excelによる統計処理（発展） 第4回　GISを用いた地図作成（基礎） 第5回　GISを用いた地図作成（発展） 第6回　受講生による報告と討論 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による報告と討論 第14回　受講生による報告と討論 第15回　受講生による報告と討論（夏季休暇中の研究計画）
授業概要	卒業研究の遂行に向けて、文献の検索と整理、Excelによる統計処理、GISを用いた地図作成、フィールドワークの方法などを学びます。また、担当者が卒業研究の構想や関連する先行研究などを紹介し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当者は報告資料を作成してください。また、授業で学んだ各種の技法を実際に駆使して卒業研究を着々と進めてください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	討論では質問や指摘、感想などを積極的に提示してください。なお、「日本史特殊研究５Ａ」、「日本史特殊研究５Ｂ」、「日本史演習５Ｂ」と連動させた授業を行うため、あわせて受講してください。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習6A（30660）　　授業コード：30660

英文科目名称：Practice of Japanese History 6A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文作成のための指導を行う。
授業計画	第1回　卒業研究の方法 第2回　受講生の卒業研究報告 第3回　受講生の卒業研究報告 第4回　受講生の卒業研究報告 第5回　受講生の卒業研究報告 第6回　受講生の卒業研究報告 第7回　受講生の卒業研究報告 第8回　受講生の卒業研究報告 第9回　受講生の卒業研究報告 第10回　受講生の卒業研究報告 第11回　受講生の卒業研究報告 第12回　受講生の卒業研究報告 第13回　受講生の卒業研究報告 第14回　受講生の卒業研究報告 第15回　受講生の卒業研究報告
授業概要	受講生それぞれの卒業論文執筆にむけた準備報告をもとに討論を行う。 １つの報告に対して、全員が必ず発言する 適宜、受講生の状況を見て、論文執筆の基礎的事項の教示、論文の輪読をおこなうことがある。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	自分の卒業論文の報告の際には、しっかりと時間を掛けて準備してください。
テキスト	特になし。必要があれば配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①討論では、あまり周りの空気を読み過ぎず、積極的に発言してください。その方が楽しいはずです。 ②計画的に卒業論文執筆を進めてください。悩んだら些細な質問でも構いませんので、是非相談に来てください。 ③受講生の特性を見て、個別に指示を与える場合があります。その場合は、できるだけやり遂げるようにしてください。
評価方法	2回程度の卒業論文報告の内容と、ゼミ内での質疑応答の様子で決めます。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習1B（30710）　　授業コード：30710

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択
担当教員			
吉田　歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究論文などの講読を行う。史料を調査することができる。考えをまとめることができる。発表することができる。
授業計画	第1回　論文報告１ 第2回　論文報告２ 第3回　論文報告３ 第4回　論文報告４ 第5回　論文報告５ 第6回　論文報告６ 第7回　論文報告７ 第8回　論文報告８ 第9回　論文報告９ 第10回　論文報告１０ 第11回　論文報告１１ 第12回　論文報告１２ 第13回　論文報告１３ 第14回　論文報告１４ 第15回　論文報告１５
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。 　なお、「日本史演習１Ａ」「日本史特殊研究１Ａ・Ｂ」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習2B（30720）　　授業コード：30720

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世(女性史に関しては古代も含む)をテーマに卒業研究作成を目指す学生に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、卒業研究を作成しましょう。
授業計画	第1回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第2回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第3回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第4回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第5回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第6回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第7回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第8回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第9回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第10回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第11回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第12回　受講者各自の研究報告及び討論・指導 第13回　受講者による卒業研究最終報告1 第14回　受講者による卒業研究最終報告2 第15回　受講者による卒業研究最終報告3
授業概要	受講者各自の研究報告及び討論・指導。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。
テキスト	受講者各自の報告レジュメ
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。 なお、日本史演習2A、日本史特殊研究2A･2Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告70％、討論への参加度30％
参考文献	
備考	他の受講者の迷惑になりますので、自分の報告担当日には絶対に無断欠席をしないで下さい。

講義科目名称：日本史演習3B（30730）　　授業コード：30730

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択
担当教員			
小林　文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テーマ １．受講生各自が卒業研究の調査・報告を行う。 ２．卒業研究論集を作成し、校正・編集の方法を学ぶ。 到達目標 １．自身の考えを論理だてて説明し、人に伝えることができる。（技能） ２．本の編集作業の重要性に気づくことができる。（態度）
授業計画	第1回　卒業研究の進め方についてのガイダンス 第2回　受講者による卒業研究中間報告 第3回　受講者による卒業研究中間報告 第4回　受講者による卒業研究中間報告 第5回　受講者による研究文献報告と討論 第6回　受講者による研究文献報告と討論 第7回　受講者による研究文献報告と討論 第8回　受講者による研究文献報告と討論 第9回　受講者による卒業研究提出直前報告と討論 第10回　受講者による卒業研究提出直前報告と討論 第11回　卒業研究論集の作成 第12回　卒業研究論集の作成 第13回　卒業研究論集の作成 第14回　卒業研究論集の作成 第15回　まとめ
授業概要	学生の報告・討論を中心に授業をすすめる。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらう。その後、受講生全員による質疑応答、討論に入る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講者の関心に応じて選定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本史演習３Ａ」、「日本史特殊研究３Ａ」、「日本史特殊研究３Ｂ」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。また、卒業研究論集の編集作業を通じて、共同で新しい作品を作り出す楽しさを味わってください。
評価方法	授業での報告６０％、討論への参加度４０％
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4B（30740）　　授業コード：30740

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択
担当教員			
布施　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	第1回　高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説 第2回　卒業研究を作成する上での留意点などの解説 第3回　受講生による卒業研究中間報告 第4回　受講生による報告と質疑応答 第5回　受講生による報告と質疑応答 第6回　受講生による報告と質疑応答 第7回　受講生による報告と質疑応答 第8回　受講生による卒業研究中間報告 第9回　受講生による報告と質疑応答 第10回　受講生による報告と質疑応答 第11回　受講生による報告と質疑応答 第12回　受講生による報告と質疑応答 第13回　受講生による卒業研究最終報告 第14回　受講生による卒業研究最終報告 第15回　受講生による卒業研究最終報告
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習４Ａ、日本史特殊研究４Ａ・４Ｂと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5B（30750）　　授業コード：30750

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２	２	選択
担当教員			
桑林　賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史地理学研究を遂行できるようになること、および歴史地理学的視点から批判的な討論を行えるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　卒業論文の執筆方法 第2回　受講生による報告と討論 第3回　受講生による報告と討論 第4回　受講生による報告と討論 第5回　受講生による報告と討論 第6回　受講生による報告と討論 第7回　受講生による報告と討論 第8回　受講生による報告と討論 第9回　受講生による報告と討論 第10回　受講生による報告と討論 第11回　受講生による報告と討論 第12回　受講生による報告と討論 第13回　受講生による最終報告と討論 第14回　受講生による最終報告と討論 第15回　受講生による最終報告と討論
授業概要	卒業研究の遂行に向けて、論文の執筆方法を学びます。また、担当者が卒業研究の進捗状況を報告し、それを踏まえて討論を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当者は報告資料を作成してください。また、着々と卒業研究を進めてください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	討論では質問や指摘、感想などを積極的に提示してください。なお、「日本史特殊研究５Ａ」、「日本史演習５Ａ」、「日本史特殊研究５Ｂ」と連動させた授業を行うため、あわせて受講してください。
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習6B（90760）　　授業コード：30760

英文科目名称：Practice of Japanese History 6B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
原　淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文作成のための指導を行う。
授業計画	第1回　夏季休暇中の研究の進展の確認 第2回　受講生の卒業研究報告 第3回　受講生の卒業研究報告 第4回　受講生の卒業研究報告 第5回　受講生の卒業研究報告 第6回　受講生の卒業研究報告 第7回　受講生の卒業研究報告 第8回　受講生の卒業研究報告 第9回　受講生の卒業研究報告 第10回　受講生の卒業研究報告 第11回　受講生の卒業研究報告 第12回　受講生の卒業研究報告 第13回　受講生の卒業研究報告 第14回　受講生の卒業研究報告 第15回　受講生の卒業研究の個別相談
授業概要	受講生それぞれの卒業論文執筆にむけた準備報告をもとに討論を行う。 １つの報告に対して、全員が必ず発言する 適宜、受講生の状況を見て、論文執筆の基礎的事項の教示、論文の輪読をおこなうことがある。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	しっかりと時間を掛けて、レジュメの準備をしてください。
テキスト	特になし。必要があれば配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①討論では、あまり周りの空気を読み過ぎず、積極的に発言してください。その方が楽しいはずです。 ②計画的に卒業論文執筆を進めてください。悩んだら些細な質問でも構いませんので、是非相談に来てください。 ③受講生の特性を見て、個別に指示を与える場合があります。その場合は、できるだけやり遂げるようにしてください。
評価方法	2回程度の卒業論文報告の内容と、ゼミ内での質疑応答の様子で決めます。
参考文献	
備考	

講義科目名称：女性史1（30810）　　授業コード：

英文科目名称：Women's history 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
山田　彩起子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代中期に花開いた宮廷女流文学は、鎌倉時代末まで命脈を保ちます。本講義では、これらの文学が生まれるバックグラウンドとなる、当該期の宮廷社会の女性のあり方を、宮廷女流文学ともども理解することを目指します。
授業計画	第1回　后妃制度 第2回　女院制度 第3回　平安時代中期の后妃の光と影１―一条朝― 第4回　平安時代中期の后妃の光と影２―三条朝～後冷泉朝― 第5回　『枕草子』と『源氏物語』の成立事情 第6回　女房についての概論1―内裏の女房の淵源など― 第7回　女房についての概論2―経済基盤― 第8回　女房についての概論3―文化的役割― 第9回　典侍･掌侍―清少納言が憧れたポスト― 第10回　院･天皇･東宮の乳母 第11回　后の女房1―后の女房の淵源など― 第12回　后の女房2―序列･職掌など― 第13回　斎宮 第14回　斎院 第15回　婚姻・夫婦のあり方
授業概要	宮廷女流文学というと、平安時代中期に生まれた『源氏物語』や『枕草子』がすぐに想起されると思いますが、これらの作品を理解するには、作者達が置かれた女房という立場をはじめとする、歴史的背景を知ることが必要不可欠です。そこで本講義では、宮廷女流文学の担い手である女房の存在形態や、サロンの女主人であった后妃・女院・皇女達の歴史を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で提示する参考文献の中から関心あるものを見つけ出し、読んでみて下さい。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	少しでも気になる人物や事柄があれば、積極的に調べてください。
評価方法	期末レポート
参考文献	毎回レジュメに記載します。
備考	

講義科目名称：考古学概説（30830）　　授業コード：30830

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
阿部　明彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	考古学は、過去の人々が遺したもの（遺構・遺物）から当時の生活や行動様式までをも考える学問である。本講義では、日本考古学の最新の研究と成果を、発掘された遺跡や遺物を通して解説する。なお、題材はできるだけより身近な東北地方や県内の遺跡に求めてみたい。昔の暮らしの跡が何を物語るのかを考古学を通して考え学び、現在の自分の生き方にも反映すべきことがないかをあらためて見つめ直して欲しい。
授業計画	第1回　オリエンテーション「考古学のおもしろさ」 第2回　縄文の女神の秘密（国宝西ノ前遺跡出土土偶について） 第3回　考古学とは何か？（考古学の目的とその研究方法） 第4回　人類の進化と旧石器時代（人類の始まり） 第5回　日本の旧石器時代と時期区分 第6回　縄文時代と土器作りの始まり 第7回　縄文時代の発展と成熟 第8回　農耕社会の始まり（弥生時代の時期区分） 第9回　卑弥呼と邪馬台国（魏志倭人伝の世界） 第10回　古墳時代と国家の誕生（古墳時代の始まり） 第11回　米沢市埋蔵文化財調査室の見学 第12回　飛鳥時代と出羽国（飛鳥時代とは） 第13回　蝦夷と出羽・陸奥国（奈良・平安時代の東北） 第14回　考古学と文化財の保護 第15回　今後の皆さんに期待すること
授業概要	旧石器時代から主として古代までの日本の歩みを、毎回パワーポイントを用いて、映像資料を取り入れながら分かり易く講義する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	定期的に小課題（レポート）を課すので、期日まで取り組んで提出すること。
テキスト	講義には定まったテキストを用いず、要点や主な映像資料を載せたレジュメを毎回配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	考古学は今や歴史を志すものにとっては必須の学問である。発掘によって出土した考古資料から新たな視点で歴史を考察する面白さを感じて欲しい。 講義資料は毎回10頁程度を目安にレジュメを準備し、画像資料を中心としたパワーポイントを用いて、分かり易さの一助としたい。
評価方法	授業への出席度、平常の講義及び学外学習時の学習態度、レポートや期末試験の考査。
参考文献	
備考	

講義科目名称：民俗学概説(日)（30840）　　授業コード：30840

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
阿部　宇洋			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、日本民俗学の概要を広く学ぶこと主題とします。また、共同で学びを深めることによって、様々な興味関心をもち、広い視野で歴史、現代を見つめる力を身につけることを願います。 到達目標 １、日本民俗学の分野に関して理解する。 ２、身近な現象を民俗学の視野で観察することが出来る。 ３、日本人は目に見えない世界をどのように理解しようとしたのかを、理解することが出来る。
授業計画	第1回　オリエンテーション、民俗学の基礎知識 第2回　調査ノート（フィールドノート）、メモ、記録に関して 第3回　民俗学の系譜１（柳田国男、折口信夫、南方熊楠など） 第4回　民俗学の系譜２（渋沢敬三、宮本常一、柳宗悦など） 第5回　地獄、極楽、供養、民衆の中のあの世 第6回　怪異とのつきあい方 第7回　やまがたを知る（グループワーク１・グループ作成と課題設定） 第8回　やまがたの郷土食を探る（グループワーク２・課題探求） 第9回　米沢の刺し子　１　十字刺し 第10回　米沢の刺し子　２　くぐり刺し 第11回　民具の基礎知識、道具から見える世界 第12回　民俗芸能の基礎知識 第13回　口承伝承　昔話、伝説の基礎知識 第14回　発表・報告 第15回　まとめ
授業概要	講義を中心に、実施します。第７回目からグループを作成して共同作業を実施してもらう予定です。第９回、第10回には米沢の原方刺し子を実践してもらう予定です。評価方法、評価の内容に関しては第１回目に詳しく説明します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。また、授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	民俗学は「あるく、みる、きく」が基礎とされますが、皆さんにはその３つに加え、みずから「考える」ことをしていただきたいと思います。社会の中に取り込まれている、隠れている民俗事象を発見できるような、視点を身に付けて欲しいと思います。 また、知らない人とコミュニケーションする練習の場にもなります。この講義では失敗を恐れないでください。コミュニケーションが苦手な人は授業時に相談してください。
評価方法	授業への参加度　15% 中間レポート　35% 発表・報告　45%
参考文献	『日本民俗学概論』（1983）、『米沢市伝統技術「原方刺し子」の詳細記録の作成と図案の研究』（2020）、他、詳しくは講義資料で紹介します。

備考	刺し子の体験を実施します。自分で刺し子のコースターを作成して頂きます。その際に、材料費が1,500円かかります。教員とのやり取りに関しては、授業内で提示します。

講義科目名称：歴史考古学（30850）　　授業コード：30850

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択	
担当教員				
吉田　歓				
開放（教養）	聴講生開講科目※		※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	文献史料と考古学資料を複眼的に利用しながら国内外の遺跡・遺物について取り上げる。歴史考古学的に思考力を身につけることができる。各遺跡の内容を理解できる。講義をもとに考えることができる。
授業計画	第1回　歴史考古学とは 第2回　平泉前史 第3回　平泉と奥州藤原氏 第4回　陣が峯城 第5回　鎌倉 第6回　草戸千軒 第7回　室町幕府の拠点 第8回　一乗谷 第9回　安土城 第10回　大阪城 第11回　根城 第12回　山形城 第13回　伊達氏の遺跡 第14回　蘆名氏の城 第15回　まとめ
授業概要	毎回、特徴的な遺跡を取り上げて解り易く解説します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	わからなかった語句の意味などを積極的に調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文献史料と考古学資料を通して歴史を組み立てていくおもしろさに気付いてください。
評価方法	積極的な授業への参加度（５０％）、レポート（５０％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：生活文化史（30871）　　授業コード：30871

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	１・２	２	選択	
担当教員				
小林　文雄				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	１．当たり前に見える行為・習慣やものの感じ方などにも、時代や地域による違いがあること、歴史的な変化があることに気づくことができる。 ２．生活文化の歴史をとおして、異文化を理解する力を身につけることができる。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　異なる文化と出会う　生活文化史の見方（１） 第3回　歴史のなかの身体、心性と感覚　生活文化史の見方（２） 第4回　暦と季節感覚 太陰暦と太陰太陽暦、時間の統御と権力 第5回　正月の過ごし方 年中行事の両分性、伝統の発明 第6回　食事と食器 食器の属人性、食事の空間、「イエ」の成立、磁器の普及 第7回　みなで同じ動きをすること－協調する身体（歩き方と歌い方） 整列行進、身分制の解体、さまざまな合唱の文化 第8回　幕末の音－ドラムとラッパー 音の環境、身体の規律化、儀礼と無音 第9回　音楽は国境を越えるか？ うたの流通、国民の成立、コミュニティ・ソング 第10回　生活のなかの時間規律－近代的時間秩序の形成－ 時間厳守、定時法と不定時法、時間の均質化、室内時計と公共時計 第11回　音読と黙読 声の文化と文字の文化　公共空間の変容　活版印刷 第12回　歴史のなかの子ども 通過儀礼、子どもの生育環境 第13回　ライフコースの歴史学 ライフイベント、歴史人口学、近代家族 第14回　住まいの空間－ウチとソトの境界－ 第15回　まとめ
授業概要	この講義には、2つの柱があります。まずひとつめは、暮らしのなかの「モノ」やしぐさ・習慣に注目することによって、近世から近代にかけての文化変容の意味を考えます。 ふたつめは、ライフサイクルのなかで生活文化のありようを考えます。住まいの問題、子どもの生育環境の問題、労働と余暇の関係などを考える手掛かりとなる題材をとりあげます。 講義資料はあらかじめTeamsで配布します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りたり、購入したり（任意です）して、できるだけ読むようにこころがけてください。 また、Teamsに上げた講義資料は事前に目を通しておいてください。
テキスト	購入しなければならない指定図書はありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義形式です。授業の理解度をはかるために、質問用シートと小課題をTeamsで何回か提出してもらいます。 このほかに授業内容に関連するアンケートもとります。
評価方法	期末レポートによる評価４０％、小課題・アンケート・質問用シートの提出状況と記述内容による評価６０％
参考文献	参考図書として、石川栄吉『欧米人の見た開国期日本　異文化としての庶民生活』角川ソフィア文庫、９６０円＋消費税 を挙げておきます。とくに購入する必要はありません。興味があればお読みください。
備考	授業前にあらかじめformsで作成した課題やアンケートを提示しますので、授業時間内に提出してください。

講義科目名称：国際交流史（30880）　　授業コード：30880

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択
担当教員			
布施　賢治			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の開国とその影響について講述し、19世紀日本をとりまいていた国際的環境を理解する。
授業計画	第1回　海外認識の高まり 第2回　知識人の対外認識―鎖国論、攘夷論、開国論― 第3回　ロシアとの北方紛争 第4回　モリソン号事件・アヘン戦争・ペリー来航情報 第5回　アメリカの日本開国動機 第6回　「対外関係史」「鎖国」という言葉をめぐって 第7回　「外圧」という言葉をめぐって 第8回　映像史料をみる　～20世紀　世界は日本をどう見ていたのか～ 第9回　ペリー派遣の背景 第10回　日米和親条約の締結 第11回　イギリスとの交渉 第12回　ロシア・オランダとの交渉 第13回　幕府の積極的開国論と日米修好通商条約の締結 第14回　日清戦争の影響 第15回　日本の植民地帝国化と日本人の海外進出
授業概要	講義形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	期末レポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：地理学特論（30911）　　授業コード：30911

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
桑林　賢治			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近現代において、歴史や伝統、記憶、文化などが特定の景観や場所、地域と結びつけられてきた過程や、そこから生じるアイデンティティ・ポリティクスの問題を、人文地理学の視点から批判的に説明できるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　近代国家のナショナルな景観 第3回　近代国家と「郷土」の創出 第4回　帝国の拡大と遺産 第5回　歴史的町並みの保全 第6回　文化的景観の価値づけ 第7回　近代化遺産への注目 第8回　近代化遺産をめぐるせめぎあい 第9回　災害の記憶の継承 第10回　戦争の歴史と負の遺産 第11回　戦没者の慰霊と地域 第12回　アイヌ民族の英雄の顕彰 第13回　首都圏におけるアイヌ民族の記憶 第14回　沖縄戦とアイヌ民族 第15回　まとめ
授業概要	現代の国家や地域にとって、歴史や伝統、文化遺産の継承・活用は、文化的・経済的にますます重要な役割を持つようになっています。この授業では、こうした動きを単に称揚するのではなく、近現代の日本の事例を基に、人文地理学の視点から批判的に考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理してください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	具体的な事例を基に、わかりやすい説明をこころがけます。また、毎回コメントシートを提出していただき、それに対するフィードバックを次回以降の授業で行うことで、理解の向上につなげたいと思います。
評価方法	コメントシート（30%）、レポート（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：自然地理学（30921）　　授業コード：30921

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	１・２	２	選択
担当教員			
佐野　嘉彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自然地理学の基礎的な知識を学習する。基礎的な知識とその成り立ちを科学的に理解できるようにすることが目的である。① 科学としての地理学を地形学、気候学の観点から理解する。② 時空間スケールを意識した様々な現象を地図も併用し理解する。③ 図・表が意味している内容を読み取り，論理的に思考する。④ 上記①～③を通じて，学問としての地理学の特徴的な見方・考え方を体験し、基礎的な知識の定着をはかる。
授業計画	第1回　イントロダクション、「ニルスの不思議な旅」からみる地理学、地理学とは 第2回　世界の気候（ケッペンの気候区分） 第3回　世界の気候（ケッペンの気候区分）②・大気物理入門 第4回　宮沢賢治「風野又三郎」からみる大気の現象と「大気大循環」 第5回　「季節風と気団」　日本の気候 第6回　梅雨と冷夏 第7回　エルニーニョ現象って何？ 第8回　エルニーニョと世界の産業や経済との関係？ 第9回　環境問題を地理で考えてみる　［温暖化はしているの？］ 第10回　地形入門①　営力を考える　［大陸移動説、プレートテクトニクス］ 第11回　環境問題を地理で考えてみる　［災害・地震対策］ 第12回　地形入門②　扇状地と三角州　［河川が作る地形］ 第13回　地形入門③　扇状地と三角州　［河川が作る地形］ 第14回　産業を空間構造から考える　世界の農作物の栽培について考える 第15回　産業を空間構造から考える　世界の工業について考える
授業概要	自然地理学の基礎的な知識を学習する。講義では、地理学分野の中の系統地理学分野を、自然地理学を中心に人文的な要素と地図を関連させながら講義を進める。地形・地質・気候・土壌・農業・産業・災害・景観・土地利用などの多様な要素は相互に関連しており，それらが歴史を経ることで現在の状態が成立している。この複雑な仕組みを，時空間のスケールを意識しながら、時に具体的な地域を例にとり説明する。基礎的な知識とその成り立ちを科学的に理解できるようになることも狙いである。① 科学としての地理学を地形学、気候学の観点から理解する。② 時空間スケールを意識した様々な現象を地図も併用し理解する。③ 図・表が意味している内容を読み取り，論理的に思考する。④ 上記①～③を通じて，学問としての地理学の特徴的な見方・考え方を体験し、基礎的な知識の定着をはかる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中学校で習う地理の知識はあるものとして講義を進める。科学的な論理が必要です。ただし、難しい概念はあまり使いません。
評価方法	レポートと試験
参考文献	

備考	2時間程度の大学周辺の実地調査を行う可能性もある。

講義科目名称：地誌学（30930）　　授業コード：30930

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択・教職必修
担当教員			
桑林　賢治			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	地誌学の視点と方法を用いて、地域現象や地域性を生じさせる地理的条件の複合的な作用を、構造的に把握できるようになることを到達目標とします。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　地誌学の視点と方法 第3回　朝鮮半島地誌 第4回　中国地誌 第5回　インド地誌 第6回　オーストラリア地誌 第7回　アメリカ合衆国地誌 第8回　サハラ以南のアフリカ地誌 第9回　東南アジア地誌 第10回　中東地誌 第11回　ヨーロッパ地誌 第12回　ラテンアメリカ地誌 第13回　東日本地誌 第14回　西日本地誌 第15回　まとめ
授業概要	この授業では、世界と日本の様々な地域について、具体的な事例を基にして、地誌学的に考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理してください。
テキスト	資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	具体的な事例を基に、わかりやすい説明をこころがけます。また、毎回コメントシートを提出していただき、それに対するフィードバックを次回以降の授業で行うことで、理解の向上につなげたいと思います。
評価方法	コメントシート（30%）、レポート（70%）
参考文献	矢ケ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著 2020.『地誌学概論　第2版』朝倉書店. 上杉和央・小野映介編 2023.『みわたす・つなげる　地誌学』古今書院.
備考	

講義科目名称：法律学（30940）　　授業コード：30940

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択・教職選択必修
担当教員			
髙木　紘一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会において法の果たしている重要な機能や役割を、できるだけ具体的な事例を通じて理解することを目標とします。そのために、「法とはなにか」という法律学の最も基本的な問題及び法と裁判に関する基本原則を踏まえたうえで、国家と個人が最も直接的にかかわる刑事裁判の仕組み・内容、課題を通じて、法の意義を考えます。
授業計画	第1回　法とは何か(1)－類概念と種差 －法規範と他の社会規範(風俗・慣習、宗教、道徳)との差異 第2回　法とは何か(2) －法の定義(強制力、適用範囲、規範の質) 第3回　法源とは何か －法の存在形態(法の存在する姿)を指し、裁判規範となるもの 第4回　法の種類 －公法、私法、社会法(近代市民社会の成立とその変化を背景として新しく生まれた法領域) 第5回　法と裁判(1) －紛争処理と裁判、裁判の種類・裁判所の組織、裁判の手続(3審制) 第6回　法と裁判(2) －裁判の基本原則(裁判の公開、当事者主義) 第7回　刑事裁判と法(1) －捜査から起訴へ(令状主義、取り調べ→場所と期間制限－代用監獄、可視化の課題) 第8回　刑事裁判と法(2) －起訴をめぐる重要原則(起訴便宜主義－検察審査会と強制起訴制度の新設) 第9回　刑事裁判と法(2) －公判をめぐる重要原則(自由心証主義、証拠法則－自白、伝聞証拠等の証拠能力) 第10回　犯罪と刑罰の法(1) －人権保障と罪刑法定主義(近代刑法の基本原則－憲法39条) 第11回　犯罪と刑罰の法(2) －犯罪とは何か(犯罪成立の三要件→構成要件、違法性、有責性) 第12回　犯罪と刑罰の法(3) －刑罰の思想、刑罰の種類、死刑存廃論(歴史、現状、世界の流れ) 第13回　裁判員裁判 －制度の趣旨、仕組み・内容、問題点及び課題 第14回　ビデオ観賞 －「日本国憲法の誕生」 第15回　授業のまとめ －法学学習の意義と法治主義
授業概要	講義形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	政治、経済、社会の動きに関心を持つことがスタートです。関連のある文庫本などを読みましょう。
テキスト	使用しない。（レジュメ・資料を配布する。）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	法律は一見分かりづらく難しいもののように思われがちですが、具体的な問題から法を眺めると、私たちにとって、こんなに身近で面白いものかということが必ず分かってきます。日頃から、新聞、テレビ等でニュースに関心を持ち、問題意識を育てることが大切です。この授業を通じて、人権感覚を磨きましょう。
評価方法	筆記試験（70%）、授業への参加度（出席カードの記述内容で判断）（30%）
参考文献	授業の際にその都度指示する。
備考	

講義科目名称：政治学（30950）　　授業コード：30950

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択・教職選択必修
担当教員			
亀ヶ谷　雅彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。
授業計画	第1回　はじめに 第2回　民主主義（これまでの変遷） 第3回　民主主義（今日の課題） 第4回　イデオロギー（これまでの価値観） 第5回　イデオロギー（新しい価値観） 第6回　政党支持と選挙（政党支持の種類） 第7回　政党支持と選挙（選挙の理論） 第8回　政策決定ゲームをしよう（準備編） 第9回　政策決定ゲームをしよう（本番編） 第10回　政策決定ゲームをしよう（ふりかえり編） 第11回　政治的パーソナリティ 第12回　政治的社会化 第13回　テロリズム 第14回　映像でみる政治心理学（前編） 第15回　映像でみる政治心理学（後編）
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。自治体の政策決定ゲームをしたり、映像をみる機会を設けてあるので、履修される方はぜひ主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。
評価方法	レポート・課題（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：社会学(日)（30960）　　授業コード：30960

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択・教職選択必修	
担当教員				
中川　恵				
	聴講生開講科目※		※一般の男女が聴講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を充分に理解して説明できる。
授業計画	第1回　ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／社会学の特徴） 第2回　【読解】言説―現代社会を映し出す鏡 第3回　【読解】能力―不完全な学歴社会に見る個人と社会 第4回　【レポート作成】文献や資料を調べる方法／フィールドワークをする方法 第5回　【読解】仕事―組織と個人の関係から考える 第6回　【読解】友だち―「友だち地獄」が生まれたわけ 第7回　【レポート作成】論文の仕組み（パラグラフ）／論文の設計図（アウトライン） 第8回　【読解】家族―なぜ少子高齢社会が問題となるのか 第9回　【読解】居場所―個人と空間の現代的関係 第10回　【レポート作成】構成と文章／注記と要約 第11回　【読解】排除―犯罪からの社会復帰をめぐって 第12回　【読解】分断―社会はどこに向かうのか 第13回　重要用語のまとめ 第14回　文献要約のまとめ―入門書編― 第15回　文献要約のまとめ―論文・専門書編―
授業概要	テキスト内容を理解し、論文等の要約文を作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例）テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例）関心のある論文・書籍を探して入手する 例）論文・書籍を読み、内容を理解して要約文を作成する。
テキスト	本田由紀編、2015、『現代社会論：社会学で探る私たちの生き方』有斐閣ストゥディア ISBN 978-4-641-15018-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・課題データ：本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用して課題の提出をおこないます。ガイダンスにて利用方法を確認してください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・講義データ：講義内容の一部はTeamsにてアーカイブ保存することがあります。講義最終日まで視聴可能とし、以後は予告なく削除します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。
評価方法	レポート：60%、小テスト（各回の学習内容）：40%
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠、2020、『はじめての論理学―伝わるロジカル・ライティング入

	門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践　自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8
備考	

講義科目名称：経済学（30970）　　授業コード：30970

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択・教職選択必修
担当教員			
山田　忍			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経済学とは、限りある資源を用いて財やサービスを生産し、どうすれば私たちの生活が豊かになるかを考える学問である。「経済学入門」では、現代社会における経済の仕組みや役割、様々な経済現象に対して、経済学的考え方を用いて理解を深める。具体的な到達目標は、次の通りである。①需要と供給の関係を述べることができる。②完全競争企業が利潤最大化となる生産量を決定する過程を述べることができる。③一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得のとらえ方を理解し説明することができる。
授業計画	第1回　ガイダンス、経済学とは何か？経済とは何か？ 第2回　ミクロ経済学の基礎 第3回　市場均衡と均衡の安定性 第4回　消費の理論　－需要曲線と消費者行動－ 第5回　生産の理論（１）：完全競争企業 第6回　生産の理論（２）：独占市場と寡占市場 第7回　市場の失敗　－外部性と公共財－ 第8回　まとめと応用（小テスト①） 第9回　マクロ経済学の基礎 第10回　国民経済計算　－国民所得の諸概念と三面等価の原則－ 第11回　財市場の分析（１）：45度線分析への準備 第12回　財市場の分析（２）：国民所得の決定 第13回　金融政策 第14回　財市場と資産市場の同時分析 第15回　まとめと応用（小テスト②）
授業概要	本講義においては、個々の企業や家計の行動や、ある財・サービスの市場などを分析する「ミクロ経済学」と一国経済全体の物価・総需要・総供給や国民所得といったものの関係が分析対象となる「マクロ経済学」を学ぶ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識の定着のために、復習に必要な時間を十分確保すること。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、大きく２つのアプローチがあります。「ミクロ経済学」は、家族単位のお金の動きである「家計」や、消費者の行動、企業が行う生産や雇用などについて分析するものです。「マクロ経済」は、景気の変動や、それに対する政府の対策など、経済の大きなメカニズムを分析するものです。それぞれの視点から、人々が生産や消費を通じてより豊かな生活を送るためにはどんな手段があるのかを考えます。
評価方法	「小テスト①」（50%）および「小テスト②」（50%）、合計：100%で評価する。
参考文献	伊藤元重 『入門経済学』 日本評論社
備考	

講義科目名称：倫理学（30980）　　授業コード：30980

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１・２	２	選択・教職選択必修
担当教員			
佐々木　隼相			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	気候変動や食糧危機といった環境をめぐる問題が切実なものである現代社会では、自然と人間の関係のあり方が大きな課題となっています。この授業では自然－人間の関係についてこれまで蓄積されてきた知見に学びながら、自分自身で環境問題を考えるさいの思考の基礎にできることを目指します。
授業計画	第1回　「自然」「環境」「倫理学」とはなにか？ 第2回　人間中心主義をめぐる批判 第3回　土地倫理 第4回　動物の権利 第5回　自由と正義 第6回　環境正義（１） 第7回　環境正義（２） 第8回　世代間倫理 第9回　ケアの倫理 第10回　日本の環境思想（１）公害とは何か・二風谷ダム 第11回　日本の環境思想（２）熊本・水俣 第12回　日本の環境思想（３）沖縄・金武湾 第13回　日本の環境思想（４）東日本大震災 第14回　日本の環境思想（５）森崎和江と＜いのち＞の思想 第15回　まとめ
授業概要	「地球・自然・環境」に「優しくしよう」、という言葉をしばしば耳にします。このフレーズに反対する人はあまりいません。またわたしたちは「優しい」行動の例をいくつも思い浮かべることができます。しかし、どうして人間の特定のふるまいが「地球・自然・環境」にとって「優しい」といえるのでしょうか。こうした身近で素朴な疑問から、人間と自然あるいは環境をめぐる倫理的な問題を一緒に考えていきます。もちろん思考の導きとして先人たちの思索も紹介します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布資料や授業中の対話を振り返ってみる、あるいは日常的に環境や自然に関する話題に関心をもつ、など、自分にとって大切な問題として筋道をたてて考えることを意識してください。
テキスト	特に指定せず必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然と人間の関係は遠い昔から現在にいたるまで熱心に議論されてきたテーマです。この授業では全員で対話を重ねながら人間と自然をめぐる問題にたいする理解を深めていきます。一緒に考えたい、話したいテーマなどがあれば積極的に共有してください。
評価方法	期末レポート50%・授業への参加度（対話における発言など）50%
参考文献	授業ごとに紹介します。
備考	

講義科目名称：哲学（30990）　　授業コード：30990

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択・教職選択必修
担当教員			
小熊　正久			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：コミュニケーション手段（媒体）としての言語や画像表現（絵画、写真）を主題にして、知覚、言語、画像、世界に関連する哲学説を検討しながら、フッサール、ソシュール、メルロ＝ポンティといった現代の思想を学ぶ。 到達目標：言語、絵画といった他者とのコミュニケーション手段の意義について、自分で考えることができ、コミュニケーションの実践に役立てることができるようにする。
授業計画	第1回　講義全体の概観（表現としての言語と絵画）［序論］。［　］内は教科書の箇所。 エピクロスの影像による視覚論［第1章2節］。次回の導入。 第2回　プラトンのイデア論（言語の意味の考察の源流）［第1章1節］ 第3回　デカルトの哲学（我思う故に我あり）［第1章3節A］ 第4回　デカルトの視覚論。［第1章3節B］ 第5回　ロックの認識論と言語論。観念の形成と言語、コミュニケーション。［第1章4節］ 第1回目課題提示の予定 第6回　バークリー（抽象観念の批判）。［第1章5節］ 第7回　カント（感性・悟性）。［第1章6節］。 第8回　カント（感性と悟性を媒介する想像力の図式）。［第1章6節の4］ 第9回　分類と差異。ソシュールの言語論。［第2章1節］ 第10回　メルロ＝ポンティのソシュール理解。意味の問題。［第2章2，3節］ 第2回目課題提示の予定 第11回　記号・表現・意味。言語的意味と前言語的意味。［第3章1，2節］ 第12回　身体と間主観性の問題。［第3章3,4節］ 第13回　フッサールによる画像意識の解明。［第3章5節］ 第14回　知覚と描くこと。［第4章1，2章］ 第15回　絵画における意味。［第4章3，4，5節］ 期末課題提示の予定。
授業概要	教科書とプリントに従い、表現の思想を追いながら、世界と人間の関係について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	教科書、プリントを使い、予習（ざっと読む）と復習（整理する）をしてください。
テキスト	『メルロ＝ポンティの表現論』（小熊正久、東信堂、1900円+税）を教科書とする。 ISBN978-4-7989-1590-6C3010. 大学内の購買部で購入可能。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典的哲学者とともに身近な話題も取り入れながら、わかりやすい授業としたい。質問や感想を述べやすい方式とするので、どんどん寄せてください。
評価方法	3回の課題提出（80%）と授業参加（20%、質問や感想を含む）による。
参考文献	随時参考となる書物を紹介する。
備考	教科書は、なるべく早く「さわらび」で購入し、持参すること。

講義科目名称：宗教学（31000）　　授業コード：31000

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	１・２	２	選択・教職選択必修	
担当教員				
原　淳一郎				
開放（教養）	高大連携開放科目※		※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	世界の宗教を事例としながら、人間にとって宗教とはどのようなものかという普遍的な宗教学の課題を考えていきたい。また世界の諸宗教がどのような経緯で生まれ、その地域にどのような影響を与えているかを知ってもらい、世界を自分なりに理解する手がかりとしてもらえれば幸いです。今後の国際化社会のなかでは、重要な視点の１つであるはずです。
授業計画	第1回　宗教はどのようにして生まれるのか？ 第2回　宗教の定義、宗教の分類 第3回　宗教的世界観１（神話の世界１） 第4回　宗教的世界観２（神話の世界２） 第5回　宗教的世界観３（聖と俗） 第6回　宗教的世界観４（死と再生） 第7回　宗教的世界観５（天国と地獄） 第8回　ユダヤ教とキリスト教 第9回　イスラム 第10回　ヒンドゥー教 第11回　仏教 第12回　日本における仏教 第13回　儒教・老荘思想・道教・修験道 第14回　神道と国家神道 第15回　新宗教と現代宗教
授業概要	宗教学の概念、宗教学のいくつかの分野、各成立宗教と民族宗教の紹介を通じて、いかに宗教が身近であるか、世界の紛争の多くが宗教に端を発しているか、日々の生活において宗教が多くの基準となっているか、そしていかに日本人がそれに疎いか、を実感してもらえるようにしていきたいと考えています。教員自身の体験、宗教学会や人類学会での各研究者の報告から色々なエピソードを交えてお話ししていきたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、宗教にかかわる事柄について積極的に情報収集し、主体的に考えること。
テキスト	とくになし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参考図書として、岸本英夫『宗教学』、宮家準『宗教民俗学』・『日本の民俗宗教』。興味が出てきたら是非読んでみて理解を深めてください。さらに関心があれば、適宜海外の文献も含めてお教えします。
評価方法	数回(6～7回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。 約6～7回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1～2段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。
参考文献	

講義科目名称：思想史（31010）　　授業コード：31010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１・２	２	選択
担当教員			
小野　卓也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。 この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。
授業計画	第1回　日本語の中のインドの言葉 音写と意訳のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう 第2回　七福神の成立 インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか 第3回　カレーライスの歴史 インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり 第4回　無常について いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方 第5回　苦と解脱 四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法 第6回　善悪の基準 十悪業と四摂法。偽善とお節介のはざまで 第7回　自己とは何か コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために 第8回　業と来世 輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか 第9回　世界の始まりと終わり 世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって 第10回　先祖と神仏 餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか 第11回　愛と慈悲 ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁 第12回　心とは何か 心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心 第13回　身分と差別 カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくならないのか 第14回　議論と論理 友好的な議論と敵対的な議論。対立を乗り越える話し合い 第15回　仏教と女性 比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回提出してもらいます。
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思います。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思います。

評価方法	毎回提出された課題を出席点とします。そのほかにレポートが2回あり、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。試験は行いません。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
備考	